

## 管区・女性に関する課題の担当者(女性デスク)報告

報告者 管区・女性に関する課題の担当者 クララ吉谷かおる(神戸教区)

日本聖公会婦人会会員の皆様には、いつも女性に関する課題への関心を共有していただき、諸活動へのご支援を賜り感謝申し上げます。この女性に関する課題の担当者(女性デスク)は、2010年からは京都教区の木川田道子さんと私吉谷との両名でつとめておりますが、2006年に総会決議により次の三つのことを目的として管区に立てられたものです。

1. 女性が社会と教会において十全にそれぞれの力を発揮し、神の宣教に奉仕することができるように研修の機会を推進すること。特にすべての意思決定機関における女性の参加を高めることに努力すること
2. 女性の諸団体の間に必要に応じた連絡・調整を行い、情報と課題の共有に努めること
3. 国際的なネットワークと連絡・調整を行うこと

女性のエンパワメント(本来の力を回復し発揮できるようにすること)のためのさまざまな働きを担っておりますが、国際的なネットワークにかかわることとして、国連女性の地位委員会及びACC代表団イベントへの代表者派遣があります。今年の第60回も被献日献金によってお支えいただきましたことに心より感謝申し上げます。上澤伸子さんからの報告に先立ち、この数年の活動の中からとくに注目していただきたいトピックについてお話しさせていただきます。

2013年に開催された第2回日本聖公会女性会議で取り上げられた二つの大きなテーマ、すべての段階における意思決定のプロセスに女性が平等に参加することと、女性の司祭按手の正当性が保持されるように働きかけていくことは、課題として継続しています。意思決定機関における女性の割合を増やすためのアピールは女性デスクでも続けておりますが、まずは「202230」、2022年までに女性の比率を30%にするという宣教協議会の数値目標が達成できるように、ますますのご協力をお願いいたします。後者に関しては2014年に「女性の聖職者に関わる諸問題についての調整と検証・提言作成のための特別委員会」が設置されて、「女性の司祭の実現に伴うガイドライン」の見直しや相談窓口設置のための準備が進められています。2年後の総会にはその成果が出されることになっていますので、今後ともこの特別委員会の働きにご注目いただければと思います。

昨年からの動きを振り返りますと、大きなこととしては次の二点がありました。

- 1) 第2回女性団体連絡協議会の開催と国際婦人年連絡会への加入を果たしました。ネットワークづくりの前段階として、昨年も報告させていただいた2014年10月の韓日聖公会宣教協働30周年記念大会、また2014年11月の「UNCSW/ACC代表団会合参加10年を振り返り、課題について考える集まり」がありましたが、2015年7月には、日本聖公会婦人会にもご参加いただいて、第2回日本聖公会女性団体連絡協議会を開催しました。これはGFS、女性が教会を考える会、正義と平和委員会ジェンダープロジェクト、リグリマなどの女性を中心としたグループで構成される会で、代表者が一堂に会して情報交換や課題の

共有をすることを目的としています。このときは成果物として安保法制への反対の意思表示として抗議文「わたしたちの声」を作成し、安倍首相と衆参両院議長へ送付しました。また国際会議に参加する以前に国内の女性団体とのネットワークにつながる必要性を感じていたことから、日本聖公会女性団体連絡協議会として、国際婦人年連絡会に加入しました。それによって以前より多くの国連・NGO・内閣府男女共同参画室等の情報に接することができるようになるなど、協力関係を作っていくやすい素地ができました。

2) UNCSW/ACC 代表団会合派遣に際し、原発と放射能に関する特別問題プロジェクトと連携しつつ原発問題に関する発信を行った昨年第 59 回に続いて、今年第 60 回では初めてパラレルイベントを開催することができました。この派遣は 2005 年から毎年続けられておりますが、ことに 2012 年からはこの会期中に世界の姉妹たちに向けて震災、原発事故について日本の現状を伝える貴重な機会を得てきました。そして回を追うごとに、紛争や飢餓、貧困の中で弱い立場に置かれてきた女性たちが当事者として意思決定に参加し、力を回復していくことが、MDGs(国連ミレニアム開発目標。最終目標年は 2015 年だった)の前進と大きく関わっているという理解を深めてまいりました。2016 年以降 MDGs は SDGs (Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標。目標年 2030 年) に引き継がれています。SDGs に関してより多くの人に関心を持っていただけるよう、情報発信に努めたいと思います。今後はこれまでのノウハウを生かし、国内 NGO などとも連絡を取りながら国内準備を充実させ、より一層チャレンジの幅を広げていけたらと考えておりますので、お祈りとご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後に、今後 10 年間の中・長期の重点目標として女性デスクが考えている 5 点を挙げておきます。①あらゆるレベルでの意思決定における女性の割合を増やすことと女性のエンパワメントに向けての取り組み②世界的な視野に立つジェンダー課題の意識化③ハラスメント防止、人権の尊重④アーカイブの整備⑤IT を使った情報発信

ことに、神学教育の中でジェンダーの課題を学ぶことの重要性を訴え、女性の聖職が働きやすいように支援していく体制をととのえるように働きかけたいと考えておりますので、お力添えをお願いいたします。

女性デスクが設置されてから 10 年の節目となり、力不足を感じる一方で、管区内外の女性たちや性別にかかわらず大事な課題であると応援して下さる方々との出会い、また国内の NPO、NGO の女性たちの働きから励ましや示唆をいただくことも多かったことが思い出されます。ボランティアワーカーとしての制約がある中ではありますが、さまざまな形での人とのつながりで補いながら、これからも女性たちが宣教の働きに喜びをもって主体的に参加できるようになることを求めて活動してまいりたいと思います。日本聖公会が、対等なパートナーシップを持って働く共同体、「すべての人に与えられている尊厳を心から尊ぶ場となり、痛んでいる人々のために喜び仕える教会」(第 57(定期)総会女性デスク報告より)となるために、祈りをともにしていただければ幸いです。